

子ども家庭支援事業について

あ せらず ゆ っく り み んな で き っ と ず っ と つ な が る



学校福祉部 子ども支援課【あゆみ】 家庭支援課【きずな】

1 子ども家庭支援事業の状況

(1) 支援対象児童生徒数(人)

実施した支援	R 5 年度 (年間)			R 6 年度 (9月末現在)		
	学校 依頼	保護者 依頼	計	学校 依頼	保護者 依頼	計
はじめの一步 (児童生徒への対応)	64	24	84※	55	18	69※
ささえて一步 (家庭問題への対応)	38	7	41※	32	6	35※
いっしょに一步 (学校生活への対応)	13	14	24※	10	9	16※
計	72※	27※	94※	62※	20※	77※

(注1)「※」…重複する場合があるため、計とは一致しない。下の(3)の表も同様。

(2) 家庭訪問等の実績(回)

実施した支援	R 5(年間)		R 6(9月末)	
学校や関連機関と行ったケース会議等の回数	625		555	
家庭訪問で直接支援した回数	217	650	165	604
地域交流センターや学校等で直接支援した回数	433		439	
保護者と面談した回数	505		467	

(3) 改善等が図られた児童生徒の状況(人)

児童生徒の状況		R5 (年間)		R6 (9月末)	
登校できた	心の教室等に登校	76 ※	15	71 ※	15
	心の教室等に定期的に登校		11		11
	教室に登校		31		20
	教室に定期的に登校		27		25
チャレンジ教室やフリースクールとつながった	チャレンジ教室等に通所	15	4	11	1
	チャレンジ教室等に定期的に通所		11		10
生活の改善(安定)が見られた	精神的に安定や向上	24 ※	15	40	15
	生活習慣が改善		4		13
	親子関係等の家庭環境が改善		10		12
新たに医療とつながったり、検査が行えたりした		16		11	
新たに関係機関とつながった		6		6	

2 焼津市の不登校への取り組み

(1) 本年度の目標

市内のすべての不登校児童生徒が、学級担任などの教員だけでなく、SC・SSW・学校福祉部・医療機関など、いずれかの関係機関や専門家の支援を受ける。つまり、どこからも支援を受けていない不登校の児童生徒ゼロを目指して、学校と学校福祉部が連携して取り組む。

※ 不登校の定義：年間30日以上欠席で不登校としてカウントする。

(2) 関係機関につながない児童生徒の割合

	R5. 9月	R6. 2月	R6. 9月
小学校	47.8%	39.5%	12.8%
中学校	37.6%	36.9%	14.2%

昨年度末から、学校以外のどこからも支援を受けていない児童生徒ゼロの取組をはじめ、今年度に入ってから、上記の目標を校長会等でも伝え、不登校児童生徒で関係機関からの支援を受けていない児童生徒がいた場合には、SSWや子ども支援課に連絡をもらうようにしている。

令和5年10月の文部科学省の発表では、学校内外の機関で相談指導を受けていない児童生徒の割合が、令和4年度に全国で38.2%であった。焼津市でも令和5年度は、関係機関につながない児童生徒の割合が高かったが、昨年度末からこうした働きかけを続けてきた結果、今年度9月には15%弱まで減ってきている。

今後も、関係機関から支援を受けていない児童生徒ゼロを目指して取組を進めていく。

(3) チャレンジ教室について

10月1日に、焼津チャレンジ・大井川チャレンジに続く市内3か所目の教育支援センターとして東益津チャレンジを開所することができた。

開所から数日で、15人もの体験・通所希望者がおり、体験した児童生徒は、楽しそうに汗をかいながら友達と活動したり、自分たちでルールを決めて仲良く活動したり、自分がやりたいことをする時間と学習する時間を分けて、落ち着いて学習に取り組んだりしている。

体験の様子を参観した保護者からは、「この素晴らしい環境でいろんな体験ができそうでうれしい。」「広いので、学習も活動も落ち着いて取り組むことができる。」「妹が体験した様子を聞いて、兄も来たくなった。」「このような施設をつくってくれた焼津市に感謝の気持ちでいっぱいです。」などの声が届いている。

これからも、すべてのチャレンジ教室において、多様な場で学ぶ児童生徒の学びを支え、子どもたちの可能性を最大限引き出すことができるよう支援していきたい。

(4) 心の教室(校内教育支援センター)について

心の教室(校内教育支援センター)の対応状況

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
のべ対応人数(家族除)	2,176	2,635	3,418	2,699
のべ対応回数(家族除)	16,744	14,958	16,588	22,306

不登校→心の教室	25	33	38	44
心の教室→教室	14	26	32	41
不登校→教室	4	4	5	6
改善した人数	43	63	75	91

焼津市では、全小中学校22校に1名ずつ心の教室相談員を配置している。心の教室相談員は平成11年度から配置しており、児童生徒や保護者からの相談を受けてきた。しかし、不登校児童生徒の増加に伴い、学校には登校できるが教室に入ることが難しい児童生徒からの相談が増えてきた。

そこで、そうした児童生徒の居場所として、「心の教室」が「校内教育支援センター」としての役割を中心とした取り組みをしている。上記の表でも、登校できなかった児童生徒が心の教室に登校できたり、心の教室から教室に向かうことができたりした児童生徒の人数が増えていることが読み取れる。

心の教室が、学校には登校できるが教室に入ることが難しい児童生徒が安心していられる場所になってきていることで、毎日登校することができている児童生徒も多くみられる。

現在、心の教室相談員の勤務時間は、研究指定校4校が1日6時間勤務となっているが、その他の18校は1日4時間の勤務となっている。そのため、心の教室相談員の勤務が終わる時刻で、下校していく児童生徒もみられる。また、午前中は起きることが難しく、心の教室に来るのが午後になってしまう児童生徒もみられる。研究指定校では、6時間勤務のため、安心して1日学校にいられたり、午後からでも安心して登校したりすることができている。こうした状況を鑑みて、まずは、心の教室の利用人数が多い中学校から、全校6時間の配置を検討していきたい。

3 成果と課題

(1) 成果

目標に掲げる「どこからも支援を受けていない不登校の児童生徒ゼロ」については、学校と学校福祉部の連携により、その割合が全国平均と比べて半分以下となり、取組の成果が出ている。また、学校に登校することが難しい児童生徒の多様な学びの場となる教育支援センターについても豊かな自然環境に恵まれた「東益津チャレンジ」が新たに開設され、入所相談や体験が行われており、充実を図ることができた。

(2) 課題

不登校児童生徒の増加傾向が続く中、今年度も夏休み明けから学校福祉部でも、登校渋りの相談が増えてきている。このような状況下で、学校には登校できるが教室に入りにくい児童生徒の支援の拠点であり、不登校の予防にもつながる校内教育支援センター「心の教室」の重要性は増してきている。しかし、勤務時間の関係で心の教室相談員が不在になる時間帯があり、課題となっている。

また、不登校児童生徒の多様な学びの場として市内3か所目の教育支援センターを開設したが、児童生徒が社会性を育み、可能性を引き出していくために、各教育支援センターでの取組の情報交換や連携の強化が必要であると考えている。